

12 わたしの子育てアクションプラン

ワークをとおして、子育ての苦労を振り返り、互いに共感し合うことで、子育て中の悩みを軽減することにつなげる。また、「子育て家庭を支える大人」として、活動に踏み出す一歩となるよう、各自で具体的なアクションプランを作成する。

子育て

見守り

目安時間	90分	手法	フォトランゲージ、アクションプランづくり
準備するもの	ワークシート、筆記用具、ふせん紙、模造紙、資料		
想定する学習機会	男女共同参画講座、家庭教育講座 等		

ワーク1 子育て中の苦労について考える。(20分)

イラストから、子育て中に感じた(感じたであろう)苦労や思いを考え、自分は思うか、自分ならどうするか、自分は昔どうしていたのかなど意見を出し合う。

ワーク2 子育ての「困り感」について話し合う。(30分)

子育て世代の「困っていること」、見守り世代から見た「困っていると思われること」を付箋紙に書き出し、意見を分類したり、話し合ったりする。また、昔も今も子育てには苦労があることを参加者全員で確認し、共感し合う。

声かけ例

- ・互いに思っている「困り感」について意見を出し合い、同じ意見・違う意見に分類してみましょう。
- ・様々な意見から、子育てには今も昔も苦労があることがわかりますね。(話し合い後)

ワーク3 「わたしの子育てアクションプラン」を作り、紹介し合う。(30分)

自分がこれからできる「子育てアクションプラン」を作成し、グループで紹介し合う。

- ・自らの知識や経験などをもとに子育て世代にどのようにかかわっていくかを考える。
- ・具体的に自分ができそうなプランを作成する。(資料表1を参考にしてもよい。)
- ・作成したプランをグループ内で紹介し合う。

声かけ例

- ・自分のできそうな「マイアクション」を決め、それを実行できるように具体的なプランを考えていきましょう。(いつ、どこで、どのようにの順に)
- ・「見守り世代」の方は、「子育て家庭を支える大人」としてどんなことができるかという視点で考えてください。また、子育てに優しい地域とはどのような地域であるかという視点も大切に考えてみましょう。

引き出したい意見(マイアクションの例)

- ・PTAや育成会などに参加することで、ネットワークを広げる。 ・ママ友をつくる。
- ・妊婦や幼い子連れの親にいたわりの気持ちをもつ。 ・困っていることはないか声を掛ける。 等

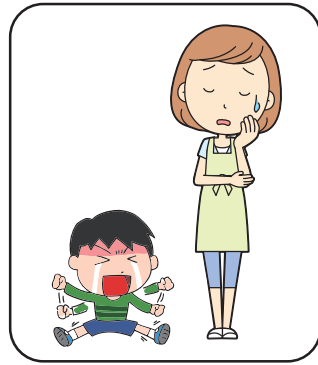
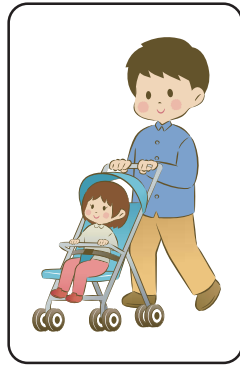
まとめ・ふりかえり (10分)

今日の活動をとおして感じたことをグループ内で発表したり、共有化したりする。

- 「わたしの子育てアクションプラン」を具体的に作成することができたか。
- 自らの知識や経験などを地域のために生かそうとする意識がもてたか。

ワークシート「わたしの子育てアクションプラン」

ワーク1 イラストを見てどう感じましたか。また、子育て中にはどんな苦労があると思いますか。話し合ってみましょう。



ワーク2 子育て世代の「困っていること」、見守り世代から見た「困っていると思われること」を話し合ってみましょう。

自分の考え

同じ意見

違う意見

ワーク3 「わたしの子育てアクションプラン」を作ってみましょう。

マイアクション	
いつ	
どこで	
どのように	

まとめ・ふりかえり

今日の活動をとおしてどのように感じましたか。

【資料】

図1 子育てをする人にとっての地域の支えの重要性

子育てをする人にとって、地域の支えが重要

約9割の保護者が子育てについて地域の支えが必要だと思っている。

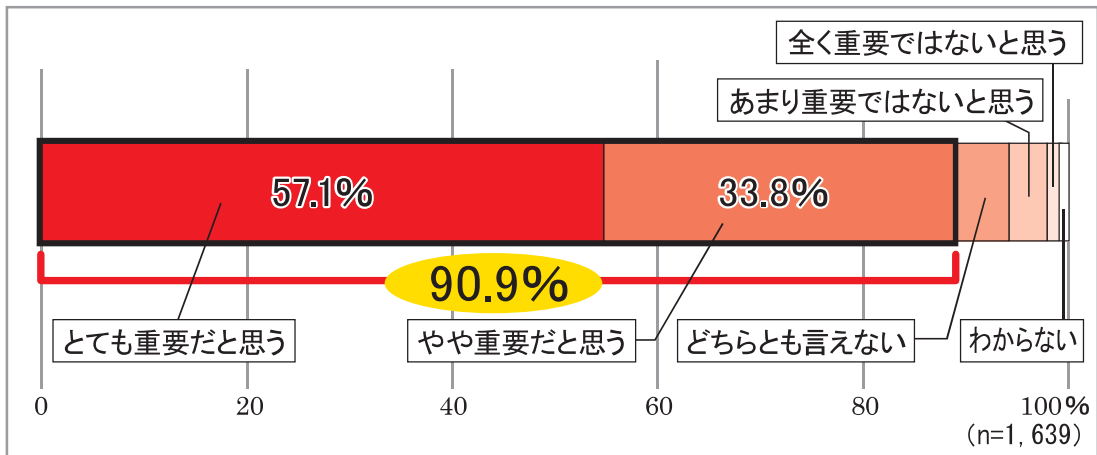
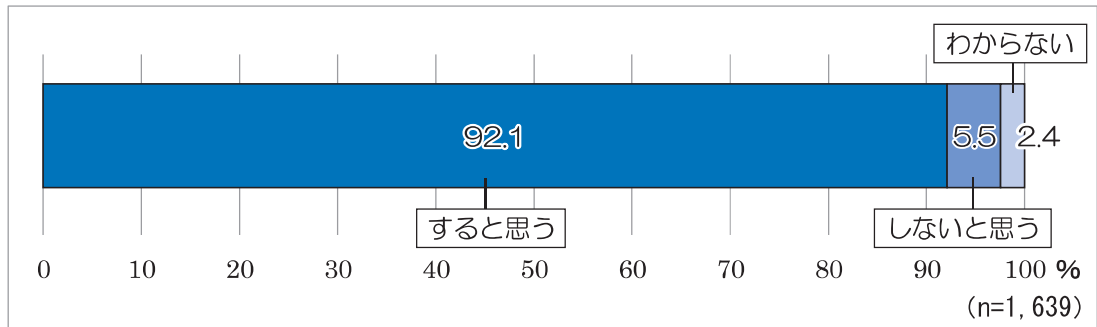


図2 公共の場での子ども連れの親への手助けや話しかけ



「街中や電車・バスなどの公共の場で、ベビーカーや子ども連れの親が困っている場面を見かけた場合に、手助けをしたり話しかけたり「と思う」という回答者は92.1%で多数を占めている。

表1 子ども連れの親に対して実際に行った行動

(%)

		ドアをあけて押さえておく、	席をゆずる	エレベーターで、先をゆずる	子どもが落としたりおもちゃや靴などをひろう	階段などで、荷物やベビーカー(代わり)を持つ	階段など、荷物を代わり(ベビーカー)を持つ	階段など、荷物を代わり(ベビーカー)を持つ	階段など、荷物を代わり(ベビーカー)を持つ	階段など、荷物を代わり(ベビーカー)を持つ	子どもをあやす	特にない	その他	わからない
全体	(n=1,639)	68.5	65.8	61.0	53.6	34.0	29.5	26.1	5.7	0.2	0.1			
男性	男性小計	(n=723)	67.9	68.3	60.2	43.0	33.6	19.6	13.8	6.4	0.4	0.1		
	20代	(n=64)	65.6	67.2	53.1	34.4	20.3	9.4	6.3	4.7	1.5			
	30代	(n=94)	81.9	62.8	86.0	43.6	29.8	13.8	11.7	4.3				
	40代	(n=141)	79.4	79.4	89.5	51.1	41.1	14.2	11.3	2.8	0.7			
	50代	(n=123)	71.5	74.8	60.2	47.2	42.3	14.5	12.2	4.1				
	60代	(n=161)	60.2	64.8	57.8	42.2	26.7	29.2	13.0	9.3				
	70代	(n=140)	53.6	60.0	52.9	35.7	35.0	27.1	23.6	10.7	0.7	0.7		
女性	女性小計	(n=916)	68.9	63.8	61.6	61.9	34.3	37.2	35.8	5.2		0.1		
	20代	(n=70)	81.4	75.7	72.9	64.3	24.3	18.6	10.0	1.4				
	30代	(n=130)	75.4	60.8	73.8	76.2	33.1	25.4	26.9	3.1				
	40代	(n=141)	76.8	86.7	70.9	75.2	37.6	31.2	35.5	2.1				
	50代	(n=169)	77.5	62.1	62.1	63.3	37.9	32.5	29.0	5.3				
	60代	(n=232)	59.9	60.3	54.7	53.4	35.8	47.8	44.0	5.5				
	70代	(n=174)	56.3	64.9	48.9	49.4	31.0	48.9	48.9	10.3		0.6		

(n=1, 639)



子ども連れの親に対して実際に行ったことのあるものとしては、「ドアをあけて押さえておく」が最も多く、以下「席をゆずる」「エレベーターで、先をゆずる」「子どもが落としたりおもちゃや靴などをひろう」の順となっている。

内閣府「平成25年度 家族と地域における子育てに関する意識調査」

13 地域ぐるみでみんな 子育て

家庭教育支援団体や行政、NPO 団体などの取組事例をもとにして、地域全体で子育てを支援していくにはどのようなことが必要とされているのか、どのようなことができるのかを、子育て世代と見守り世代のそれぞれの立場から考える。地域ですべきことを具体的に考え、最後に簡単な提言や提案としてまとめる。

子育て

目安時間	110分	手法	取組事例の紹介、ラベルワーク
準備するもの	ワークシートA・B、別紙の事例、ふせん紙、模造紙、筆記用具、ペン		
想定する学習機会	公民館まちづくり講座、家庭教育支援講座、家庭教育・子育て支援ネットワーク、企業研修 等		

見守り

ワーク1 取組事例から学ぶ (30分)

- ・事例の紹介資料(4件)を配布し、事例の解説資料を読んで説明をする。(1件5分程度)
- ・気付いたことなど、感想をグループ内で発表する。

ワーク2 それぞれの立場から、できることや、やってほしいことを考える (50分)

ワーク1の事例を参考にしながら、自分たちの地域では、子どもたちにどのようなこと(交流や体験、学習活動など)をすべきか、それぞれの立場(見守り世代、子育て世代)でできることやできそうなこと、また、やってほしいことをふせん紙に書く。

声かけ例

- ・自分ができることやできそうなことだけでなく、皆さんが知っている、地域にいる人や施設、団体等と連携してできることやできそうなことなど、幅広く考えて書いてください。

- ・時間のかかり具合を横軸に、効果の出やすさを縦軸にした図を、模造紙に書く。
- ・グループで、ふせん紙に書いたことを発表しながら図のどこに当てはまるか分類して貼る。
- ・同じような意見をまとめて、小見出し(タイトル)をつける。

ワーク3 「地域ぐるみでみんな子育て」するには自分たちは何ができるかを考える (20分)

ワーク2でまとめたことをもとに、「地域ぐるみでみんな子育て」を行うために、どのようなことから取り組めるか、グループ内の意見をまとめる。

まとめた意見を「提言・提案書」として作成し、発表する。

- ・提言や提案は、「思いつきました・やりたいです・やります」から一つ選び、その内容について具体的に3項目程度に絞り込む。
- ・グループごとに作成した提言や提案を発表する。

まとめ・ふりかえり等 (10分)

今回の活動をとおして感じたことをグループで交流する。

- 地域住民の一人として、仲間と一緒にやれば実現できそうだと気付いたか。
- 地域ぐるみで実践できそうな計画を考えることができたか。

ワークシートA「地域ぐるみでみんなで子育て」

ワーク1 事例紹介

- ①事例の紹介（別紙）
- ②事例から気付いたことを話してみましょう。

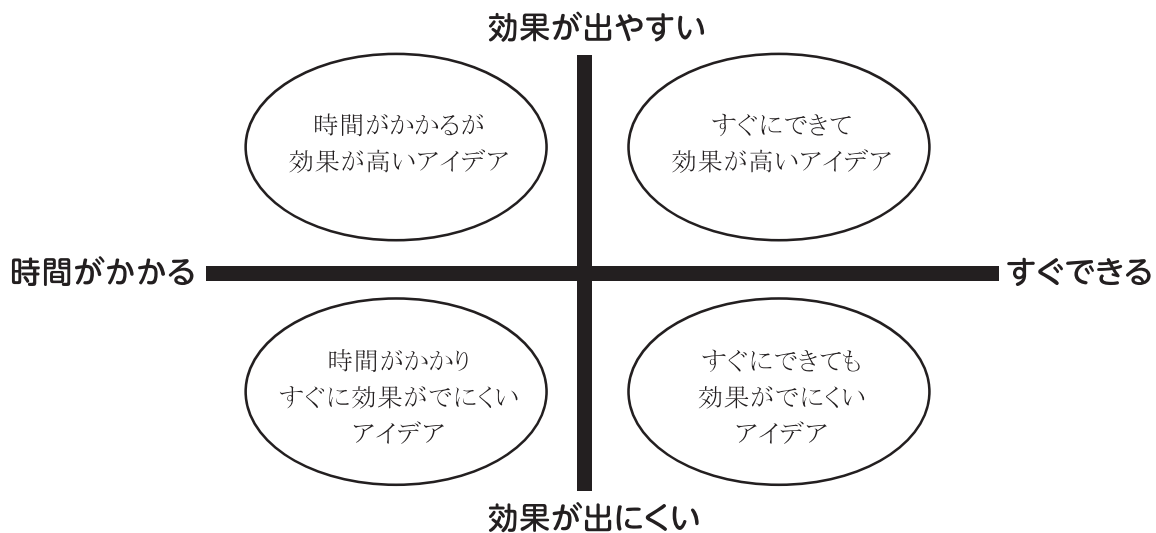
ワーク2 自分たちの地域では、子どもたちにどのようなこと（交流や体験、学習活動など）をすべきか考えてみましょう。

- ①それぞれの立場でできること、やってほしいことをふせん紙に書きましょう。

見守り世代…自分たちには、こんなことができるかなあ
子育て世代…こんなことがあるといいなあ

- ②下記のまとめ方を参考にしながら、模造紙にふせん紙を分類して貼り付け、意見をまとめていきましょう。

【模造紙のまとめ方】



ワーク3 ワーク2でまとめたことをもとに、「地域ぐるみでみんなで子育て」をするために自分たちは、どのようなことから取り組んでいくことができるか、簡単な提言・提案(ワークシートB)を作成しましょう。

●発表・全体共有

グループで作成した提言・提案を発表しましょう。

まとめ・ふりかえり

今後、地域住民の一員として地域全体に関わっていかうと感じたかまとめましょう。

提言・提案書

私たちは、次のようなことを

(思いつきました) ・ (やりたいです) ・ (やります))

※ 該当するところを○で囲みましょう。

1

2

3

栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会の取組

<p>きっかけ 1987年～ 1988年</p>	<p>家庭教育近隣活動指導者養成講座で出会った受講者が、修了後も継続的な研修や情報交換の場の必要性を痛感し、連絡会結成準備会を立ち上げた。</p>
<p>結成 1989年</p>	<p>栃木県家庭教育オピニオンリーダー連絡会（のち連合会）を結成する。広報第1号（のち会報「かるがも」）を発行する。</p>
<p>その後</p>	<p>他県に先駆けた取組であったので、全国や関東地区規模の大会等で、度々、その活動内容を発表してきた。2017年5月現在522名、8ブロック、39支部で様々な家庭教育支援活動を展開している。</p>

活動内容



- ・旧市町村単位で地域に根ざした子育て支援をめざした支部活動
- ・行政機関や市町との子育てに関わる連携・協力
- ・親の子育てに関わる相談活動、学習活動
- ・近隣家庭同士のネットワーク化活動や父親の子育て支援
- ・親子の体験活動

県全域で

家庭教育支援関係講演会

複数の地域で

活動の連携協力、
スキルアップを図る研修や交流会

地域で

読み聞かせ、食育、親学習プログラムの実施など
直接、親子へ関わる活動

活動の様子

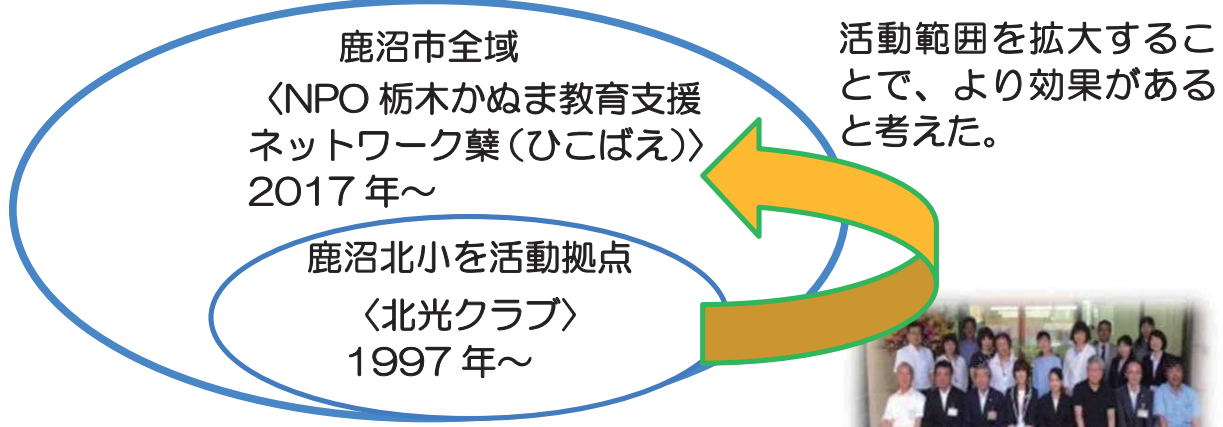


体を動かしたり、工作を
したり、料理をしたり、
親子で一緒に活動をして
様々な体験をします。

研修でスキルアップ

鹿沼市

NPO 栃木かぬま教育支援ネットワーク薬（ひこばえ）



北光クラブの活動

☆学校施設を利用して自分たちの生涯学習に取り組む活動



☆学校と協働し、学校教育の場における子どもの学びや活動の支援

小学4年生の総合的な学習の授業では、外部講師をお招きして、講話や福祉体験（車椅子リレーやバスケット）をした。



☆子どもたちの放課後や休日における学びや活動の場の提供

地域の方々の協力によって、サマースクールが行われている。例えば、地域の特産を生かした、鹿沼市建具組合青年部による親子木工教室などがある。

薬（ひこばえ）

キャリア教育の講座
・市内3校の中学校で実施



ワークショップ

- ・語彙力を高めるママと子どもの数と言葉あそび
- ・初めてのかご作り



授業支援の例

- ・琴の鑑賞と体験
- ・合唱指導など



佐野市 NPO 子育て女性支援団体ばおぼぶ



2007年3月～

子育て中のママ10人が集まり、佐野の子育て情報やママ友づくり、サークル活動を中心とした活動をスタート。

現在

地元企業と働きたいママのマッチングを行ったり、ポスティングなどのチラシを折る仕事をもらったりしている。



これから

地元企業と一緒に何かを作ったり、対象を小学生に広げ地域が子どもを中心にまわせる仕組みづくりを行いたい。

主な活動

子育て情報紙「ばおぼぶ」を毎月発行。
児童館、図書館、保育園、市内の小児科などに配布。

子育て支援ルーム「ばおぼぶす」(月～水の10時から14時)の運営。

運営メンバー、利用者は、職場復帰等をして年度ごとに替わる。



サークル活動

「泣いてばかりいるけど、大丈夫なの？」など気軽に相談できる。

育児相談

ベビーマッサージ

胎児～未就園児の親子の心身のケアをする。

音楽遊び

骨盤ケアやマタニティケア

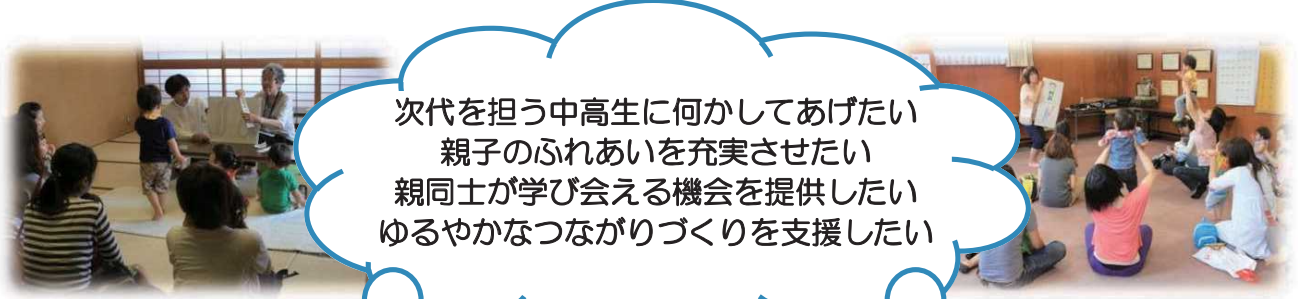
ベビーマッサージの様子



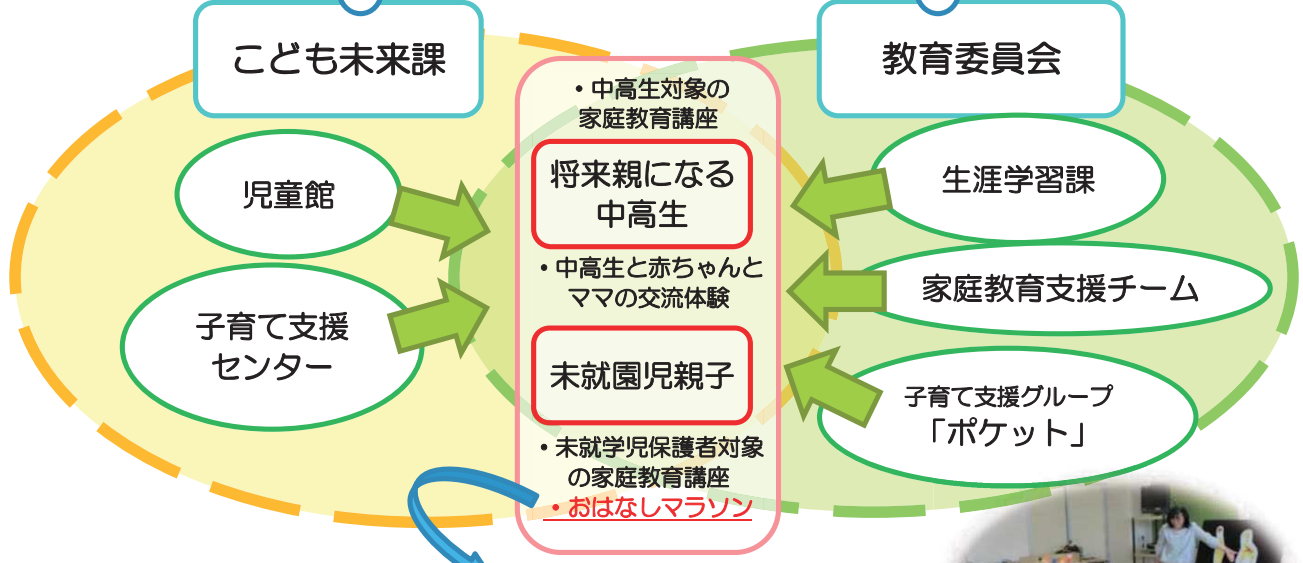
音楽遊びの様子



壬生町における家庭教育支援 ～こども未来課と生涯学習課との協働した取組～



次代を担う中高生に何かしてあげたい
親子のふれあいを充実させたい
親同士が学び会える機会を提供したい
ゆるやかなつながりづくりを支援したい



(例) おはなしマラソン

- ◇対象 未就園児親子
- ◇会場 子育て支援センター
- ◇協力者 読み聞かせボランティア、民話の会、母親クラブ、子育て支援グループ「ポケット」など、各分野で活躍する団体、個人
- ◇内容 ①ボランティアがそれぞれの部屋に分かれて、1回あたり10分程度のパネルシアター、昔の遊び、絵本読み聞かせ、民話の語り、紙芝居、人形劇等、それぞれの団体や個人が得意としていることを数回に分けて披露。
②参加者は自由に（時には指示された順番に）各部屋をめぐり、お話や手遊び等を親子一緒に楽しむ。

※児童館、子育て支援センター、子育て支援グループ「ポケット」の連携・協働による事業の一つとして、平成25年度から毎年2回実施している。

【参加者の声より】
○いろいろなものが各部屋で楽しめるのがよかった。昔遊びやなつかしい手遊びもなかなか伝える機会がないので、よい時間だった。
○子どもは8ヶ月で話の内容はわかっていないものの、絵本を見て喜んでいて、いい刺激になった。
○いろいろなサークルがあり、あちこちでイベントが開催されていることを知ったので、これから参加してみたいと思う。



事例の解説や説明するための事前の知識として

1 講座の受講者が立ち上げた取組

栃木県

～栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会の取組～

【きっかけ】

1987年に栃木県教育委員会が行った「家庭教育近隣活動指導者養成講座」（1992年～、家庭教育オピニオンリーダー）の第1期修了生49名から、それぞれの地域において継続的に研修を続け、情報交換が必要であるという声があがった。翌々年、栃木県家庭教育オピニオンリーダー連絡会が結成された。

【活動内容】

地域に根差した活動を目指していることから、旧市町村単位で支部を結成し、子育て支援としては、親子を対象とした体験活動を実施している。活動内容は、読み聞かせ、食育、季節の行事を取り入れたものである。また家庭教育支援としては、親を対象とした研修会の依頼を受けて実施しているものがある（以前は、託児を行うこともあった）。また、いくつかの支部が集まったブロック単位で研修会を行って学びを深めたり、会員同士の交流を深めたりしている。

【その後】

全国に先駆けて取り組み始めた地域での家庭教育支援の活動であり、様々なところで、その活動内容について発表を行っている。市町の生涯学習課等と連携しながら地域の実情に合わせた活動を行い、会員を増やして更に活動の場を広げている。

2 学校支援団体から市全域を支援する NPO へと発展した取組

鹿沼市

～NPO 栃木かめま教育支援ネットワーク薬（ひこばえ）の取組～

【きっかけ】

活動のスタートとなった北光クラブは、1997年に他校で行われている文部科学省委託事業の「学社融合」という手法にヒントを得て始まった。学校施設を利用して自分たちの生涯学習に取り組みながら、子どもたちの放課後や休日における学びや活動の場を提供しよう、学校の先生方と協働した学校教育の場における子どもの学びや活動を支援しようという主旨で続けている。しかし鹿沼北小以外からも支援の要請や要望があり、それらに応えるために2017年に「薬（ひこばえ）」を立ち上げた。

【活動内容】

事務所のある建物で、ワークショップを実施したり、学校支援を行ったりしている。また、事務所のスペースを利用して、地域の方の手作りの品を展示販売して、憩いの場の提供をしている。

【これから】

地域の課題解決に向けた支援などにも取り組んでいきたい。

事例の解説や説明するための事前の知識として

3 NPO 子育て女性支援団体の取組

佐野市

～NPO 子育て女性支援団体「ばおぼぶ」の取組～

【きっかけ】

保健センターの助産師さんと連携して、月に1～2回、育児相談と合わせて、ベビーマッサージの会を行うようになった。保健センターでの実施が終わってしまったが、継続を望む声を受けて、2007年子育て中の母親10人がメンバーとなって立ち上げた団体。

【活動内容】

佐野の子育て情報やママ友づくり、骨盤ケア、マタニティケア、出張整体、ピラティス、無料クレンジング&メイク、ネイルなどの美容や健康に関すること、英語遊び、統計心理学、スクラップブック、撮影会などの講座やサークル活動を行っている。情報紙「ばおぼぶ」を発行している。マタニティーサークルもあり、胎児～未就園児の親子が利用している。

【これから】

地域の企業や教育委員会、保健福祉部局などの行政と連携をとって活動をしていきたい。

4 福祉部局と教育委員会が協働した取組

壬生町

～児童館と子育て支援センター（こども未来課）と家庭教育支援団体（教育委員会生涯学習課）との連携した取組～

【きっかけ】

2012年当時、家庭教育支援実行委員であった児童館長、子育て支援センター所長、「ポケット」メンバーの、「各々で行ってきた事業のいくつかで、それぞれの得意分野を生かして連携・協働できれば、より子育て家庭に寄り添った切れ目のない家庭教育支援ができるのではないか」という提案がきっかけで、平成2013年度より連携が開始された。

【活動内容】

①家庭教育支援に関すること

- ・未就園児保護者を対象としたあたたかなつながりづくりの（孤立させない）ための講座
- ・子どもの愛おしさを感じてもらえるような親子のふれあいを重視した講座
- ・近い将来親となる中高生を対象とした講座
- ・おはなしマラソン

②それぞれの主催事業での連携

- ・児童館、子育て支援センター、「ポケット」、生涯学習課それぞれの代表による年間予定と連携できそうな行事の確認・調整
- ・それぞれの主催事業への協力（参加の呼びかけ、チラシ配布、当日の運営支援）

コラム

地域の教育資源を生かした地域づくり ～「ふれあい学習」による地域づくり～

地域の教育資源とは

地域の教育資源とは、大人や子どもが学ぶ際に、その学習内容となったり、学習を進める上で活用することができる、地域の「ヒト」、「モノ」、「コト」のことです。

この地域資源を活用した学びは、地域に対する理解を深めたり、学習者が学習への興味・関心を示したり、地域の強みの発見につながったりすることが期待できることから、学習プログラムを企画する際には、積極的にその活用を考えていくことが効果的です。

地域の教育資源とは、以下のような例が挙げられます。

【ヒト】

- ・地域活動実践（指導）者
- ・専門的技術所有者
- ・伝統芸能伝承者
- ・学校支援ボランティア
- ・読み聞かせボランティア
- ・家庭教育支援ボランティア
等々

【モノ】

- ・歴史的史跡
- ・文化財
- ・伝統工芸品
- ・農産物
- ・郷土料理
- ・名産品
等々

【コト】

- ・自然
- ・風土
- ・祭り
- ・伝統文化（行事）
- ・伝統芸能
- ・方言
- ・習慣
- ・民話
- ・子どもの読書活動
- ・食育
- ・あいさつ運動
等々

このような地域に根づいた教育資源を学習に取り入れることで、地域を場とした学習の継続につながるなど、学びから地域づくりに発展することが期待されます。

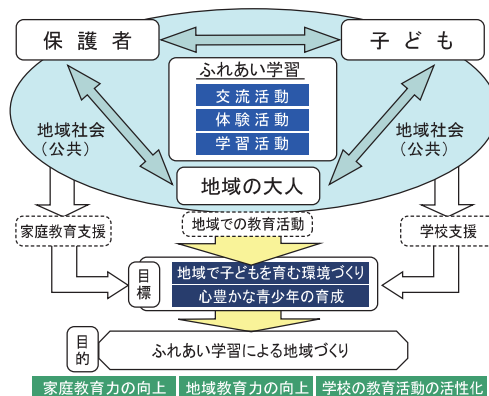
栃木県が進める「ふれあい学習」

栃木県では、次世代を担う子どもの「生きる力」の育成と、家庭と地域の教育力の向上をめざし、子ども同士、大人同士、子どもと大人、そして幅広い年代の人々の「交流活動」、「体験活動」、「学習活動」を「ふれあい学習」として平成 13 年度から推進しています。

そして、この「ふれあい学習」は様々な活動をとおして、地域コミュニティの活性化、地域づくりを目指しており、前述の「地域の教育資源」の活用による、地域活動の推進およびその仕組みづくりを県として支援しています。

具体的には、地域づくりに関心がある人や実際に地域活動に参加している人同士のネットワークを作ったり、参加型学習のプログラムを提案したり、公民館等における取組支援など、地域の「ヒト・モノ・コト」を活用した地域づくりを支援しています。

県内7箇所を設置された教育事務所には「ふれあい学習課」が設置されており、地域における「ふれあい学習」の支援を行っています。「地域課題解決型学習」の実施においては、この「ふれあい学習」の取組と連携することで、地域づくりにつながっていくことが期待されます。



14 育てたい子どもの「心」 大切にしたい大人の関わり

子どもは、様々な経験や人とのあたたかな関わりをとおして、「心」を育んでいく。子どもたちに育ててほしい「心」は何か、そのために大人はどう関わっていったらよいか、子育て前世代、子育て世代、見守り世代が主体的に話し合いながら考える。

子育て前

子育て

見守り

目安時間	70分	手法	ディスカッション、ラベルワーク
準備するもの	ワークシート、筆記用具、ふせん紙、模造紙、カラーペン		
想定する学習機会	家庭教育講座、保護者会、子ども会・育成会での研修会、企業研修 等		

ワーク1 子どもに大切にしてもらいたい「心」について考える。(15分)

未来を担う子どもたちに大切にしてもらいたい「心」についてワークシートに記入し、伝え合う。

引き出したい意見

(自分を、他人を)大切にできる心・(自分を・他人を)好きになる心・素直な心・(他人を)思いやる心・尊重する心・チャレンジする心・くじけない心・まっすぐな心 等

ワーク2 「自己有用感」を高める意義と大人の関わりについて知る。(10分)

資料を見て、子どもの「自己有用感」を高める意義と大人の関わりについて確認する。

確認したいこと

【「自己有用感」を高めることの良さは？】

・他者や集団との関係の中で、自分に自信をもっていきいきと生活ができるようになる。

【どのような関わりが大切か？】

・「自己有用感」には、他者や集団との肯定的な「関わりの経験」が関係している。

※自己を肯定的に評価している状態を指す言葉には「自尊感情」や「自己肯定感」がありますが、「自己有用感」は、相手の存在なしには高まらない点で、「自尊感情」や「自己肯定感」とは異なります。

ワーク3 子どもの豊かな心を育むための大人の姿勢や活動について考える。(35分)

子どもの自己有用感が高まり、豊かな心が育まれるために、地域の大人としてどんな姿勢で関わるとよいか、また、関わりの機会としてどんな活動ができるかについて考える。

声かけ例①

- ・子どもの心を育むために、大人はどんな姿勢を見せればよいでしょうか。また、子どもにどんな経験をさせればよいでしょうか。考えてふせん紙に書いてみましょう。
- ・1枚のふせん紙に一つのことだけを記入してください。
- ・思いついたことをたくさん記入してください。

②

- ・一つ一つ発表しながら、同じような意見はまとめて、タイトルを付けてみましょう。

確認したいこと

・「自己有用感」が高まるような「人と関わることを喜びとを感じる体験が不可欠」「他の人と関わることは楽しい」「役に立てたらうれしい」という気持ち味が味わえる機会をつくるのが大切である。

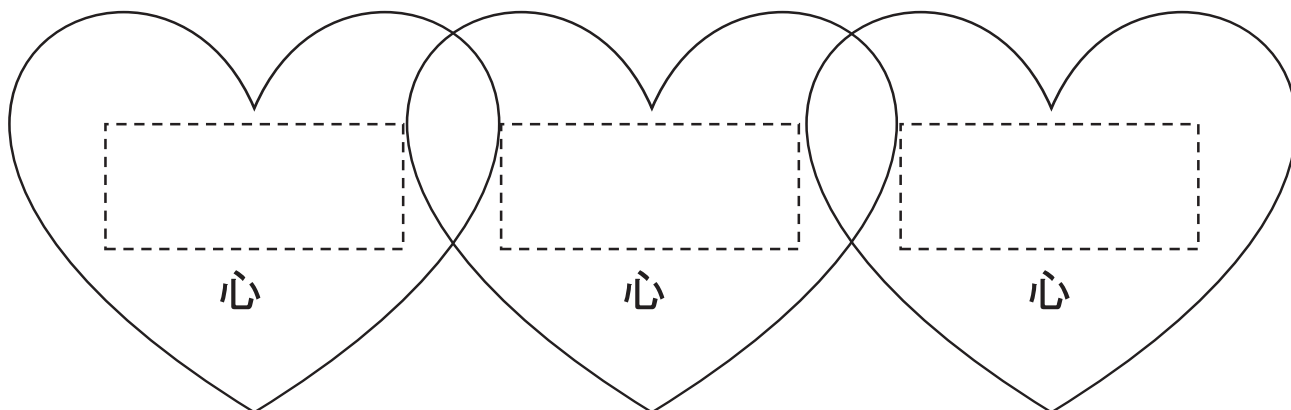
まとめ・ふりかえり (10分)

全体の意見をふりかえり、子どもの豊かな心を育むことについて考え、発表する。

- 他者との効果的な関わりから自己有用感が高まり、子どもの心が豊かになることが分かったか。
- 子どもの豊かな心を育てるための関わり方について考えることができたか。

ワークシート「育てたい子どもの『心』大切にしたい大人の関わり」

ワーク1 未来を担う子どもたちに大切にしてもらいたい「心」は何ですか？



●書き終わったらグループで話合しましょう。

ワーク2 資料を見て、子どもの「自己有用感」を高める意義と大人の関わりについて確認しましょう。

ワーク3 子どもの自己有用感が高まり、豊かな心が育まれるために、地域の大人としてどんな姿勢で関わる必要があるか、また、どんな活動ができるか、ふせん紙に書いて、グループで類型化しましょう。

どんな活動がいいのかな？

★ワンポイント・アドバイス★

- 楽しさを感じやすい活動
- 全員が取り組みやすい活動
- 無理せず、十分な回数を行える活動
- △ 高度で、得手不得手の差が大きな活動
- △ 成果を感じ取りにくく、やたらと疲れる活動
- △ 単発の活動

Check!

人と関わることを喜びと感じる体験が、いじめ防止につながる心を育むために必要であると言われています。

「他の人と関わることは楽しい」「役に立てたらうれしい」と感じられる場や機会をどうしたらつくれるでしょうか。



参考：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター「いじめの未然防止ⅡLeaf.9」(H24)

まとめ・ふりかえり

今後、子どもの豊かな心を育むためにどんな関わりができますか。

【資料】

「自己有用感」

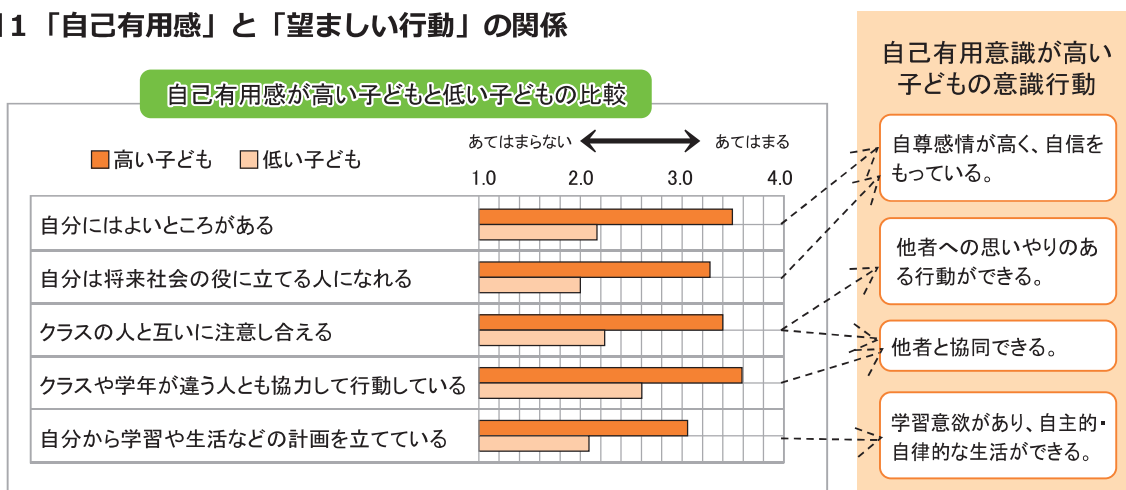
1 「自己有用感」とは？

他者や集団との関係の中で、自分の存在を価値あるものとして受けとめる感覚です。

2 「自己有用感」を高めることで、子どもたちはどう変わる？

他者や集団との関係の中で、自分に自信をもっていきいきと生活ができるようになります。

図1 「自己有用感」と「望ましい行動」の関係



栃木県総合教育センター 『高めよう！自己有用感』 栃木の子どもの自己有用感調査(小・中・高)リーフレット(教師用) (2013)

3 「自己有用感」が高い子は、どんな経験をたくさんしているのか？

次のような経験が多くある、または感じたことが多い子どもは、少ない子どもより高い割合で「人のために役立ちたい」「周りの人と関わることが好き」「自分は必要とされている」「周りの人から認められている」と感じています。



地域の大人と肯定的な関わりを多く経験している子は、「自己有用感」が高い。

- 褒められたり、感謝の言葉を言われたりして、嬉しかったことがある。
- 人と交流したり、ふれあったりして、嬉しかったことがある。
- 最後までやり遂げて、やればできるという達成感を味わったことがある。
- 誰かの役に立つことができ、嬉しかったことがある。
- 誰かに頼りにされて、嬉しかったことがある。
- 進んで人と関わりたいと思ったことがある。
- 人や地域のために、もっと貢献したいと思ったことがある。
- もっといろいろなことができると感じたことがある。
- 誰かに支えられている自分や地域の一員としての自分を実感したことがある。

参考：壬生町社会教育委員の会議「中学生および青少年の自己有用感を高める地域活動のあり方に関する提言～地域活動を『参加』から『参画』へ～」(2017)

コラム「いじめに備える基礎知識」

いじめを起きにくくするために

他人を攻撃しないですませられる強さや自信を児童生徒がもつ上で、人と関わることを喜びと感じる体験は不可欠です。「面倒だったり、イヤなこともあったりするけど、他の人と関わることはやっぱり楽しいし、役に立てたらうれしい」と感じる場や機会をつくることで、安易に他者を攻撃することを防ぎます。

そのためには、全ての児童生徒に充実した集団体験を提供することが重要です。児童生徒が共同的な活動に主体的に取り組む中で、他者から認められ、他者の役に立っているという「自己有用感」を感じ取る。そうした「自己有用感」がベースとなり、互いを認め合う中から生まれる“絆”という感覚。そうした感覚によってつながった人間関係を、児童生徒自らが更に紡いでいく“絆づくり”。授業や行事の場面がそうした“絆づくり”の場となるようにすることが大切なのです。

いじめの背景には、ストレスやその原因となる要因等が存在する。



他人を攻撃しないですませられる強さや自信を育むためには・・・



人と関わることを喜びと感じる体験が不可欠。
(面倒だったり、イヤなこともあったりするけど、他の人と関わることは
やっぱり楽しいし、役に立てたらうれしいという体験)



充実した集団体験を提供することが重要であると言われている。



他者から認められ、他者の役に立っているという「自己有用感」が育まれ、
互いを認め合えるようになる。

参考：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター「いじめに備える基礎知識」（2015）

15 “ふるさと”への想い

～世界へ羽ばたく子どもたちへ～

自分の住んでいる地域のよいところを話し合うことによって、“ふるさと”のよさを再確認し、子どもたちが誇りに思う地域とはどのような地域かを考える。また、地域の大人として、自分ができることを考える。

子育て前

子育て中

見守り

目安時間	90分	手法	エピソード、ラベルワーク
準備するもの	ワークシート、筆記用具、ふせん紙、模造紙、資料		
想定する学習機会	地域づくり講座、家庭教育講座 等		

ワーク1 自分の住んでいる地域に残る「よさ・よいところ」を出し合う。(10分)

下野かるたを参考に、地域に残る「よさ・よいところ」を考え、「ひと・もの・こと・その他」に分けてワークシートに記入する。

声かけ例

- ・人や場所、地域の祭りなど、自分が住む「地域のよさ」だと思ふところを書き出してみましょう。その際、下野かるたを参考にしてみてください。分類できないものは、その他に書いてください。

ワーク2 自分が子どもだった頃の地域を思い出し、グループで共有する。(20分)

エピソードを読み、自分が子どもだった頃の「地域のよさ」を思い出し、「地域のよさ」とは何かをグループで話し合う。

声かけ例

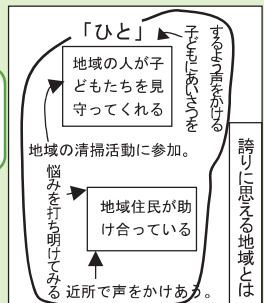
- ・昔と今を比べながら、自分が子どもだったころの「地域のよさ」を考えてみましょう。

ワーク3 誇りに思う地域とはどのような地域か、また、誇りに思う地域をつくるためにはどのようなことができるかを考える。(50分)

①ワーク2で出し合った「地域のよさ」から、子どもたちにとって誇りに思うことができる地域とはどのような地域かをふせん紙に書き出し、グループで類型化する。

引き出したい意見

- ・安心して遊ぶことができる場所がある。・自慢できる伝承文化がある。
- ・地域の人が子どもたちを見守ってくれる。・地域住民が互いに助け合っている。等
- ②・子どもたちが誇りに思う地域を作るため、自分にできそうなことを考え、模造紙に追記したり、ふせん紙に書いて追加したりする。
- ・グループで話し合い、全体に発表し共有する。



ワークのイメージ (一部)

声かけ例

- ・「ひと・もの・こと」に分けて、それぞれに自分ができそうなことを考えてみましょう。

まとめ・ふりかえり (10分)

今後、どのような地域にしていきたいかをグループ内で発表したり、共有したりする。

- ☑地域のよさについて自分なりの考えをもつことができたか。
- ☑地域の大人として、子どもたちが誇りに思う地域をつくるためにできることを考えることができたか。

ワークシート“ふるさと”への思い～世界へ羽ばたく子どもたちへ～

ワーク1 自分の住む地域には、どのような「よさ・よいところ」があるかを「下野かるた」などを参考に考えてみましょう。

分類	思いついたこと	下野かるた
ひと（人物）		あ ひ
もの（自然や施設）		も こ
こと（行事や祭りなど）		な は
その他 （上記に分けられないもの）		ゆ

 <p>あ この町、 雨情の確</p>	 <p>な 泣き相撲の 勝ち名のり</p>	 <p>も 藍を着る</p>	 <p>ゆ 夢を 育てる おもちゃのまち</p>	 <p>は 早がわりの 山あげ</p>
 <p>ひ ひきしぼる 与一の弓</p>	 <p>こ 孔子を まっつる 足利学校</p>	<p>出典：下野かるた 栃木県文化協会発行。栃木県内の自然、文化、伝統行事をはじめ、歴史上の人物などを選び作成されています。県内各所の地域に残るよさを達観することができます。</p>		

ワーク2 エピソードを読み、自分が子どもだったころの地域を思い出し、「地域のよさ」について話し合ってみましょう。

エピソード

今日は、10年ぶりに地域の祭りが復活した日です。
自分が子どもだった頃、地域の祭りが楽しみで、毎年わくわくしながら祭り当日を待っていました。そんな気持ちを子どもたちにも感じさせたい、地域の祭りを引き継いでほしいとの思いから、地域の同志が集まり、祭り復活のために動き出しました。
今日のこの日を迎えるまでは、いろいろ苦労もありましたが、子どもたちが大勢参加し、ワイワイと出店屋台をのぞく様子や親子の楽しそうな笑顔を見ると、やはり復活させてよかったと思いました。この祭りをきっかけに、子どもたちには、地域のよさやその他の楽しい行事にも、たくさん触れてもらいたいと思いました。

ワーク3

- ① ワーク2で出し合った「地域のよさ」から、子どもたちが誇りに思う地域とはどのような地域だと思いましたか。話し合ってみましょう。
- ② ①のような地域をつくるために、地域の大人として、自分ができそうなことを考えてみましょう。

まとめ・ふりかえり 「地域のよさ」や、これからできることを考えられましたか。

【資料】

とちぎの魅力・実力ランキング



県マスコットキャラクター
元気ニコニコ室長
「とちまるくん」



県勢概要

- 面積：6,408.09 km²（関東最大） <全国第20位>
- 人口：1,962,433人（H29.4.1現在） <平成27年国勢調査では全国第18位>
- 県庁所在地：宇都宮市（人口約52万人、平成27年国勢調査では北関東最大）
- 市町村数：14市11町（H27.4.1現在）
- シンボル：県木（トチノキ）、県獣（カモシカ）、県花（やしおつつじ）、県鳥（オオルリ）
- 県民の日：6月15日（栃木県と宇都宮県が合併し、概ね現在の県域が成立した日）

☆とちぎは首都圏の“食のオアシス”

○首都圏の食料供給基地

- ・地域性豊かな農業生産を展開し、農業産出額は全国9位（平成28年）



○“いちご王国”

- ・とちおとめで有名な「とちぎのいちご」は49年連続生産量日本一（昭和43年産～平成28年産）
- ・高級いちご「スカイベリー」や多くの人に親しまれている「とちおとめ」のほか、夏秋用「なつおとめ」など、一年中おいしいいちごが楽しめます。

○ニラと餃子がマッチング

- ・宇都宮餃子にも使われるニラの生産量は全国2位

○全国トップクラスのおいしさ「とちぎのお米」

- ・米の食味ランキングで県オリジナル品種「とちぎの星」が最高評価の特Aを獲得（平成29年産）

○全国有数のそばどころ

- ・産出額は全国4位、生産量も全国6位のそば生産県、農村レストランが各地に

○まだまだある「とちぎの農産物」

- ・1位 かんぴょう、二条大麦、もやし、うど、麻
 - ・2位 生乳、こんにゃく芋
 - ・3位 日本なし、アユ漁獲量
- ※順位は生産量（「もやし」は産出額）



とちぎには
魅力がいっぱい
まる



☆とちぎが誇る“優れた歴史・文化”

○世界が認めた歴史遺産

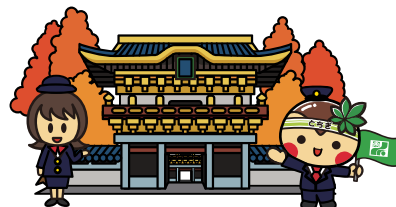
- ・「日光の社寺」は平成 11 年に登録された世界文化遺産
（日光の社寺：二荒山神社、東照宮、輪王寺の二社一寺）
- ・「日光杉並木街道」はギネスブック認定の世界一長い並木道
（全長約 37 kmは宇都宮環状道路や山手線とほぼ同じ）

○歴史遺産はそのほかにも・・・

- ・「下野薬師寺」は奈良時代に設置された日本三戒壇の一つ。
（※戒壇：僧侶として守るべき戒律を授ける所）
- ・「足利学校」は日本最古の学校
- ・「那須疎水」は明治初期につくられた日本三大疎水の一つで、平成 29 年に世界
界かんがい施設遺産に登録

○伝統芸能もすごい！

- ・日本一の野外劇「烏山の山あげ行事」（7月）、絢爛豪華な彫刻屋台の「鹿沼
今宮神社祭の屋台行事」（10月）（以上2つは平成 28 年ユネスコ無形文化遺産
に登録）など



☆とちぎの豊かな自然環境

○自然は“世界級”

- ・世界に誇る日光国立公園は、ラムサール条約湿地「奥日光の湿原」や、日本三
名瀑「華厳滝」で有名
- ・多様な生き物を育む「渡良瀬遊水地」は平成 24 年 7 月ラムサール条約湿地に
登録

○温泉がいっぱい

- ・源泉総数が全国第 10 位の国内屈指の温泉県。鬼怒川、那須、塩原など名湯が
点在し、豊富な泉質が楽しめる。

○水がおいしい

- ・尚仁沢（塩谷町）などおいしい水が豊富。これらの水を使い、地酒をつくる酒
造は 37 か所と「知られざる酒どころ」

☆すぐれた伝統の技

○伝統工芸品もたくさん

- ・益子焼、結城紬は国指定伝統的工芸品
（結城紬はユネスコ無形文化遺産に登録）
- ・烏山手すき和紙、日光彫、真岡木綿、鹿沼組子、間々田紐、天明鋳物など 57
品目が栃木県伝統工芸品に指定



出展：とちぎの魅力・実力ランキング（栃木県県民生活部広報課）

16 子どもの笑顔・未来を 応援し隊

子育て前

子育て

見守り

子育て前、子育て、見守り世代が、子どもを中心とした地域の子子どもと大人、大人同士の関わりを見直し、大人同士がつながり、地域の子子どもたちの笑顔や未来を応援するために、どんなことができるかを考える。一人一人が、今からできることを考え、実践につなげていく。

目安時間	100分	手法	ラベルワーク
準備するもの	ワークシート、筆記用具、ふせん紙(3色)、模造紙、カラーペン		
想定する学習機会	地域づくり講座、家庭教育講座、企業研修、育成会等の研修 等		

ワーク1 今の子子どもとの関わりと子どもの頃の大人との関わりを振り返る。(15分)

今の自分の地域の子子どもたちとの関わり、子どもだった頃の地域の大人との関わりを振り返り、ワークシートに記入し、グループで共有する。

ワーク2 関わりを図に表し、気付いたことを話し合う。(30分)

今と子どもだった頃、それぞれの関わりを別の色のふせん紙に記入し、グループで共有しながら、ふせん紙を使った図に表す。完成した図を見て、感想を話し合う。

ワーク3 さらに必要な関わり、大人同士のつながりを考える。(30分)

- ① 完成した図や、各グループの図を参考に、今の子子どもたちの笑顔や未来を応援するために、さらに必要な関わりを考え、ふせん紙に書き出し、図に加える。

声かけ例

・地域で子どもたちを育てるためには、さらに、どんな関わりをする大人がいると良いと思いますか。

- ② 大人同士のつながりによって、実現できそうな関わりを線で結び、具体的に取り組みそうなことを書き加える。

声かけ例

・子どもたちの応援隊として、大人同士のつながりによって実現できそうなことを書き加えましょう。

ワーク4 自分にできることを考える。(15分)

完成した図から、今、自分にできることを考え、ワークシートに記入する。

引き出したい意見

- ・学校でボランティアとして子どもたちに関わっていきたい。
- ・地域の行事にたくさんの人を巻き込んで、子どもと関わる場を設定したい。

まとめ・ふりかえり (10分)

今回の活動をとおして感じたことをグループで交流する。

- 地域には、子どもに関わるたくさんの大人がいること、大人同士がつながることによって、子どものためにできることがあることに気付くことができたか。
- 地域の一員として、子どものためにできることを考えることができたか。

ワークシート「子どもの笑顔・未来を応援し隊」

ワーク1 ①今、自分の地域の子どもたちとの関わりがありますか？

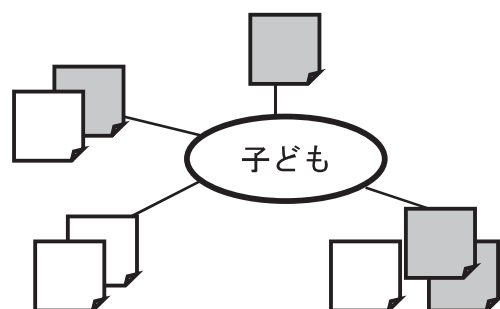
はい 「はい」の場合は具体的な関わりを記入しましょう。 いいえ

②子どもだった頃、地域の大人と関わりがありましたか？

はい 「はい」の場合は具体的な関わりを記入しましょう。 いいえ

ワーク2 今と子どもだった頃、それぞれの関わりをふせん紙を使った図に表しましょう。

【例】



【手順】

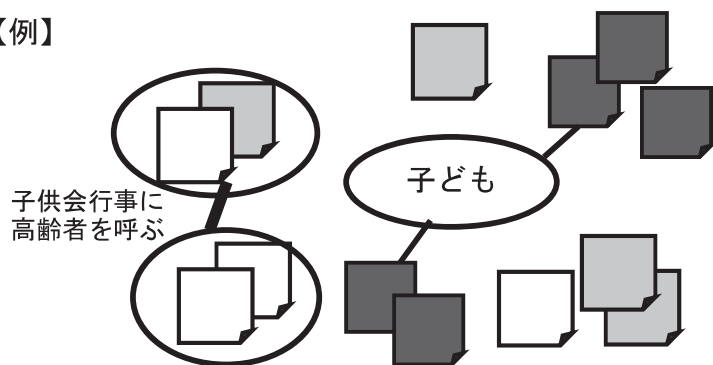
- 1 模造紙の真ん中に「子ども」と書く。
- 2 「今」と「子どもだった頃」の関わりを、ふせん紙の色をかえて記入する。
- 3 内容が近いものをまとめながら模造紙に貼っていき、線で結ぶ。

☆完成した図を見て、気付いたことを話し合しましょう。

ワーク3 ① 子どもたちの笑顔のために、さらに必要な大人の関わりをふせん紙に記入し、図に加えましょう。

② 完成した図を見て、子どもたちの応援隊として、大人同士がつながることによってさらに広がる関わりを線で結び、取り組めそうなことを書き加えましょう。

【例】



【手順】

ワーク①

新たな関わりを違う色のふせん紙に記入し、図に貼る。

ワーク②

大人同士がつながることによって、実現できそうな関わりを線で結ぶ。

具体的に取り組めそうなことを書き加える。

ワーク4 完成した図を見て、今、自分にできることを書きましょう。

まとめ・ふりかえり

本日の活動をとおして、どんなことを感じましたか。